

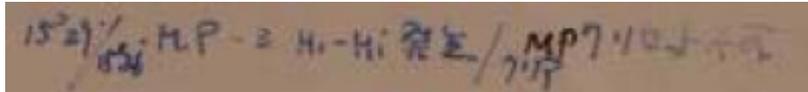
津波到達前に高レベル放射線を検出

3月11日 15:29に1号機から約1.5 km離れたモニタリング・ポストMP3で高いレベル(Hi-Hiと表記されている)の放射線量を知らせる警報がなったことが明確に記載されている。

『原発訴訟』 海渡雄一 岩波新書 2011.11.18 155頁

東電トップページ > 原子力 > 東日本大震災後の福島第1・第2原子力発電所の状況 > 東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第1原子力発電所プラントデータ集 >

4. 運転日誌等 > 1・2号機 16/55



15:29/15:36 MP-3 Hi-Hi 発生/クリア (MP7リセット不可)

福島第一原子力発電所 1号機

平成23年3月11日 金曜日 (1直) 当直員引継日誌(2/)

1号機
 地震発生以降、スクラム対応操作については中操ホワイトボードのメモより転記した。
 なお、SBO以降については「地震後当直引き継ぎメモ」を参照。

時刻	内容	分類
14:46	地震発生	
14:46	自動スクラム成功 ・ D/G 1A・B自動起動 ・ MSIV 自動全閉 - 電源なし ・ 最低炉水位 ↓150mm	
14:58	大津波警報発令 → 満潮 20:09 M. COND真空破壊	
15:06	純水タンク フランジ部(腕3本)漏洩確認	
15:07	トーラスクーリング(A) インサービス	
15:10	トーラスクーリング(B) インサービス	
15:16	炉圧 6.8MPa 炉水位 +910mm ・ Rx水位, 圧力はI. Cにて制御中	
15:29/15:36	MP-3 Hi-Hi 警報発生/クリア (MP-7リセット不可)	
15:37	D/G1Bトリップ → SBO (A系トリップはいつ?)	
15:50	計測用電源断 → 水位不明	
17:30	ディーゼル駆動FP 起動 (圧力低信号リセットにて)	
17:47	ディーゼル駆動FP 燃料272L	
20:50	ディーゼル駆動FP 起動	
17:37	T/B BFL 床から20cm程度有	
17:47	1-2号開閉所 使用不可 (しゃ断器脱落のため) * 緊対室より	
18:18	IC MO-2A, 3A 開 (蒸気発生確認)	
18:25	IC MO-3A 閉	
21:30	IC MO-3A 開 (蒸気発生確認)	
21:16	ろ過水元弁開 ?	
21:21	燃料域水位計(A) 仮設電源に切替 +30cm	
21:51	1号機 R/B入域禁止	
< 以降, 3月12日分 >		
06:14~06:20	仮設消火ポンプ 注入準備 (ATOX殿)	
06:20	仮設消火ポンプ 注入開始 1m3	
10:16~10:25	PCVベント AO-1601-90 開操作 → ダメ	
分類の凡例	M: MRF発行 不: 不適合報告 定: 定例試験・切替 操: 運転操作 P: PTW RW: R/W関係 様: 様子見 他: その他	

◇福島原発：津波が来る前に放射能漏れの可能性―地震で既に打撃か

東京電力福島第1原子力発電所では津波が来る前に放射能が漏れていた。東電が今週公表した「事故記録データ」がその可能性を示した。東電はこれまで、3月11日に起きた東日本大震災に伴う津波で冷却電源が失われ炉心溶融で発生した水素が建屋爆発を起こし外部に大量の放射線物質が飛散したと説明していたが、これが根底から覆る可能性が出ている。

このデータによると、3月11日午後3時29分に1号機から約1.5キロ離れたモニタリング・ポストで高いレベルの放射線量を知らせる警報が鳴った。大津波が福島第1原発を襲ったのはその数分後で、原子炉の非常用冷却設備を動かすための電源が失われた。

東電原子力設備管理部の小林照明課長は19日、ブルームバーグ・ニュースの取材に対し、「モニタリング・ポストが正常に作動していたかどうか、まだ調査している。津波が来る前に放射性物質が出ていた可能性も否定できない」と認めた。

近畿大学原子力研究所の伊藤哲夫所長（原子力安全工学）は19日、「地震の段階で何らかの損傷があったということは当初から想像はしていた。東電はなぜ2ヶ月もたってから公開したのかと非常に腹立たしい」と述べた。

東電はこれまで、原発はマグニチュード9の地震に耐え「想定外」の津波が放射能漏れの遠因になったと説明していた。福島第1原発事故は過去最悪だった1986年のチェルノブイリ原発事故並みの「レベル7」に位置付けられている。

地震直後に放射能漏れが起きていたとすれば、「地震大国」日本にある他の原発も安全対策の根本的な見直しが必要になる。伊藤氏は「地震の対策も再度見直す必要がある。福島のような事態を想定して対策をしないと膨大な建設費がかかる。こういった事態が起きてしまった以上、それが起きないとは言えず難しい選択だ」との見方を示した。

東電は今週、大震災直後の福島第1原発の状況を数値で示す数千ページに上る文書を公表した。

美浜の会 <http://www.jca.apc.org/mihama/>

2011年11月14日 「海外の論文が示す津波の前の放射能放出―福島第1原発1号機」に詳細
http://www.jca.apc.org/mihama/fukushima/discharge_btsunami.pdf

5月19日のブルームバーグ紙が、福島第1原発で津波がくる前に放射能が漏れていたと伝えたことはよく知られている。この古い情報が、ネイチャー誌10月27日号も紹介している新たな研究によってよみがえり、ストレステストの前に立ちはだかる。(略)

(ブルームバーグ紙の) この情報は、東電が5月16日に公表した運転日誌類の16頁目にある「1号機 当直員引継日誌」に書かれている。その元になったホワイトボード写真は19頁目にあり、モニタリング・ポスト MP3 で高高警報が発生したと書かれている。

この頃、14:40に地上10mで風速1.9m/sの南東の風が吹いていた(右図)。この状態がしばらく続いたとすると、15:29にMP3がキャッチした放射能は1号機を15:16頃に出たことになる。

津波がきたのは15:30過ぎとされているので、津波がくる前に放射能が原発から出たことになる。

●モニタリングポスト(MP)配置図 2011年3月11日 14時40分現在

